

<今日の説教のポイント 出エジプト記7章14節～8章28節>

驚きの10の災い。まず前半の4つから見て来ることを考える。

1 信じ難い災いの意味は？ さらに信じ難いファラオのかたくなさ？

自然界を巻き込んだ信じ難い10の災いですが、普通の自然現象（ナイル川の洪水、バッタの襲来）で捉えられる気がするかもしれません。しかしそうではなく、神様が起こされた一度限りの出来事として捉え、それに対して示すファラオの頑迷さ(7:14)・かたくなさ(7:22)を考えることが信仰の書である聖書が提示している問題です。10の災いには驚かされますが、ファラオの頑迷さも普通ではないでしょう。その意味です。

2 魔術師を巡る変化に注目。それでもなおかたくななファラオは誰？

この話を読んで行くと、共通して記していることに気づくと共に、それがまた変化して行っていることにも気づきます。前半の4つの話の中では、神様がモーセたちを用いて起こされた出来事を魔術師もまた秘術を用いて起こせたことが記されています(7:22、8:3)。と同時に、それが次第に起こせなくなって行き、自分たちの業と神の業の違いを認め(8:14-15)、4つ目の出来事ではついに魔術師は登場しなくなるのです。

「奇跡を見たら信じる」は間違いです。秘術をもって不思議を起こすことが出来る場合があるからです(使徒8:9のシモンも)。その奇跡が何かから出たものか、その源がどういうものであるかを確認することが必要なのです。また、ファラオは本当の神様の奇跡を見ようとはしませんでした。自分を神の位置に引き続けたかったからです。ファラオのかたくなさはそこから来ているのです。私たちも気をつけなければなりません。

3 人間の存在のあり方が異常になる時、被害は被造物全体に及ぶ？！

このファラオの姿は神様に対する人間のあり方として異常なのです。その異常さが他の被造物である自然界に大きな被害を及ぼすことをこの話から聞き取りたいと思います。「神様ひどい、動物たちをこんな目に合わせるなんて」と考える前に、自分たちのしていることを考えなければなりません。三千年以上前の話ですが、今私たちが自然災害やコロナ禍を経験する中で、大事な問いを投げ掛けてくれているような気がします。今、あなたたちは神様に対して謙虚な存在であるか、と。